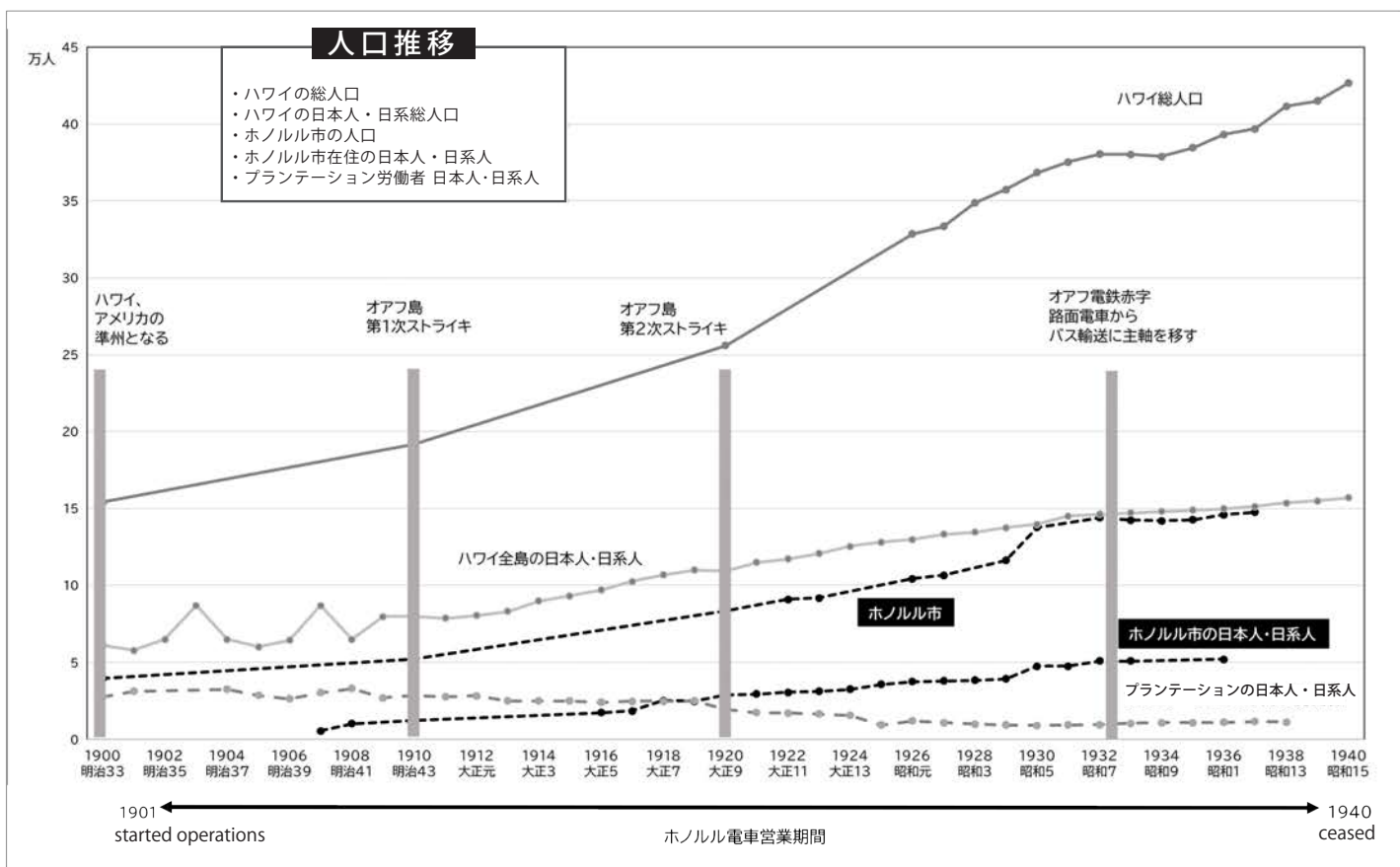




新バス電車

HONOLULU RAPID TRANSIT CO.
NOW OFFERS
THE ELECTRIC RIDE ON RUBBER



1941(昭和16)年4月14日 日布時事 お別れの電車 資料③

資料①1936.2.22日布時事 <https://hojishinbun.hoover.org/en/newspapers/tmj19360222-02.1.5>
資料②1937.12.30日布時事 <https://hojishinbun.hoover.org/en/newspapers/tmj19371230-01.1.8>
資料③1941.4.14日布時事 <https://hojishinbun.hoover.org/en/newspapers/A-SH1703-003.1.1>

電車と歩んだ三十五年

山口県玖珂郡和木村出身の岡田多一は、一八九六(明治二十九)年自由移民として渡航した。ハワイ島ババコウを経てオアフ島ワイアラ・プランテーションで働いた後、ホノルル郊外のアイアで商店を開業したが、幼少の頃から夢であった機械技師になることを目指して方向転換。ホノルル鉄工所に就職して技能を身につけ、一九〇一(明治三十四)年四月ホノルル電鉄機械部に入社した。以来三十五年間機械工として精勤、多大な貢献があったとして、重役会議は毎月九十ドルの終身給付金を支給することとした。



1933(昭和8)年バス事業を本格化 日布時事布哇年鑑 1933-1934(昭和8-9)年

電鉄会社の最古参社員

岡田氏恩給附引退

創業以来三十五年間勤続の譽れ 月額九十弗を支給さる

1936(昭和11)2月22日 日布時事 資料①

ハワイ日本人移民史

語り継ぐ移民の歴史

発行

A4判 247頁 定価 3,800円(税抜) Amazonで注文できます

にほしま

第24号

JULY 2020

令和2年7月

ハワイ移民資料館 仁保島村

〒734-0026 広島市南区仁保三丁目17-6
LIFESTYLEMUSEUM NIHOJIMAMURA TEL&FAX 082-286-6331

ホームページ <https://hawaiiniho.com>
kawasaki1885@yahoo.co.jp

The Rainbow State, Hawaii

ホノルル電車物語

1901(明治34)年-1940(昭和15)年



1923(大正12)年、ホノルル・オアフ島の自動車台数は万台を超え、8年後には3万台に達した。

キングストリート 1926(昭和元)年頃 当館蔵

ホノルル電鉄のデータ			
年代(年)	電車台数(台)	バス(トロリーを含む)(台)	電車・バスの乗客数(人)
1923(大正12)	63	6	2015万0318
1924(大正13)	69	7	1942万4196
1925(大正14)	69	7	1708万5178
1926(昭和元)	70	7	1630万6252
1927(昭和2)	70	8	1606万4834
1928(昭和3)	78	10	1512万9606
1929(昭和4)	78	12	1476万1986
1930(昭和5)	78	12	1450万5045
1931(昭和6)	78	13	1399万1328
1932(昭和7)	78	14	1224万8268
1933(昭和8)	64	34	1061万2536
1934(昭和9)	60	39	1188万6907
1935(昭和10)	60	45	1271万2053
1936(昭和11)	60	51	1373万6540
1937(昭和12)	60	61	1628万4445
1938(昭和13)	60	71	1846万0134
1939(昭和14)	60	121	1697万3962

1932(昭和7)年から乗客数の減少とバス事業者の出現と路線の維持管理費の負担で経営が圧迫され、バス輸送に転換を図る。乗客数には4万人前後の無料優待者(警察官・消防士・郵便配達・従業員)を含む。

1901(明治34)年 ホノルル電鉄会社は15マイルの馬車鉄道を買収、架線を敷設、鉄路も25マイルに増設して電車を走らせた。当初の事業計画案は全長177マイル、オアフ島を一周するという壮大なものであったが1919(大正8)年、ホノルル市内の工事未了を理由に市内のみに縮小した。同年の乗客数は1538万人。乗客数も順調に増加し財務も堅調であったが、乗用車の普及やライバルのバス事業者の出現などで乗客数が減少、1933(昭和8)年度には2万4000ドルの赤字となった。同社は新規参入者に歯止めをかけるため、政治力を行使。ハワイ政府に年額350ドルの保険契約を開業の条件とする「バス取締法」を制定させた。しかし、その後もバス事業の継続や新規開業者が後を断たず、同社の経営を脅かすことになった。時代の波は、電車からバスに。1940(昭和15)年6月ホノルルを東西に横断するワイキキ⇄シャフター兵営路線の運行権利を持つローズフラン社を買収。ドル箱路線と車両17台を手に入れた。同年7月31日バス事業に特化することを発表して路面電車から全面撤退を宣言した。この後ハワイ政府は「バス事業者はホノルル電鉄のみとする」決定を下した。

ホノルル電鉄路線案内図

電車を利用 なさい

ホノルルの下町商業区域や野球、蹴球試合その他多数の群衆する所では自動車のパーキングは極めて困難であり面倒です。電車を利用なされば、パーキングの心配なく危険が殆んどなく而も費用は低廉で三徳があります。

ホノルル電鐵會社

Honolulu Rapid Transit Co., Ltd.

運賃10セント 乗り換え自由
カイルキ・ワイキキ・カリヒのバスは電車の引換券を発行
日布時事布哇年鑑 1931-1932(昭和6-7)年

—青の路線は1923(大正12)年以降に増設

- 大日本帝国総領事館
- ① 1886(明治19)年4月
 - ② 1908(明治41)年
 - ③ 1913(大正2)年



1923(大正12)年
ホノルル市内地図
71×43cm 当館蔵

仁保島村
にほじむら
複写・転載を禁ず

